BOOK REVIEW

書評「心臓の動きと血液の流れ」
ウィリアム・ハーヴィ著，岩間吉也訳，講談社学術文庫，
平成17年2月10日出版，945円（税込み）

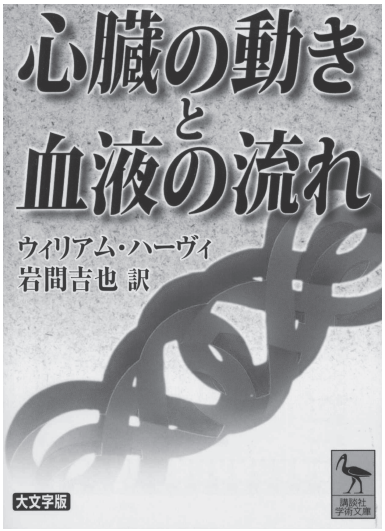
ブレインサイエンス振興財団　理事　川村　　浩

本書は日本生理学会特別会員，大阪大学名誉教授の岩間吉也先生が，御退職後，生理学の金字塔の一つであるウィリアム・ハーヴィ，William Harvey（ハーヴェイとされていることが多いが，英文辞書ではハーヴィ）の1628年フランクフルト出版，「Exercitatio anatomica de motu cordis et sanguinis in animalibus」（諸動物における心臓と血液の動きに関する解剖学的研究）のラテン語原書から，訳されたものである．

この本は戦前の昭和11年に，労働科学研究所の暉峻義等先生により英語版から翻訳され，岩波文庫に入っており，昭和36年に改訂版として再び岩波文庫より出版されている．

それでは岩間先生の翻訳は屋上屋を架すの類かというと，これが全く違うのである．まず本を開いて見ると，普通の文庫本と違って，字が大きく読みやすい．これは持ち歩いて読むうえでも有難いことである．つぎに暉峻訳は戦前の文体や言葉を引きずって，学術用語についても多少古風である．しかし岩間先生訳書は現代語そのままなので若い方にもすらっと溶け込めるだろう．文章も理解しやすいように工夫されていることが感じられる．また心臓の解剖生理学についても先生は概説を試みられており，これは若き日の岩間先生が医学部入学後に佐武安太郎先生の推薦書として読み始めたが，中途にして挫折した経験を生かされたものである．

血液が心臓より送り出されて，身体をめぐってまた心臓に帰る事は，今日では生理学の基本的知識である．しかしそのことは，380年余り前に，初めて，本書によって明記されたのである．生理



「心臓の動きと血液の流れ」初版（1628年）の表題ページ

学を学ぶもの，教えるもの，いずれの立場でも重要な原典として座右に置くべき一本であることに間違いはない．

そしてまたそれ以上に，先生が若き日の初一念を貫徹するため，現役を退かれた後に，あらたに昔の欧州の学術用語であったラテン語の原本を翻訳されるまでに再学習されたことは（戦後しばらくまで，医学部では解剖学名などに役立つ簡単なラテン語を教えるところが多かった）驚嘆すべき非凡な努力をされたことを物語るものである．後進として深く敬意を表すると共に，また若い方々への大きな刺激ともなるであろう．ちなみに先生は1919年生まれで，本年86歳になられる．

わが国では，大学図書館が米国などに比べて，著しく不備なのに加えて，研究者の支援体制も不十分きわまりないため，なかなか現在進行中の研究の根源にさかのぼって，発展経過を理解するような読書をする暇がないのが現実である．そのため教科書なども多くの著者が，自分の得意分野の新知識を紹介するにとどまって，読者にはなかなか基本的な研究の流れを理解することが困難なものが多いように思われる．そうした点からみてもこの本を人体の機能に関心のある多くの方々に必読の書としてお勧めしたい．